

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm² スランプ 18 cm
鉄筋：D10~D16:SD295 A

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

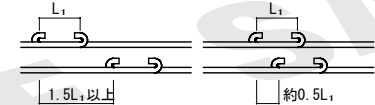
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

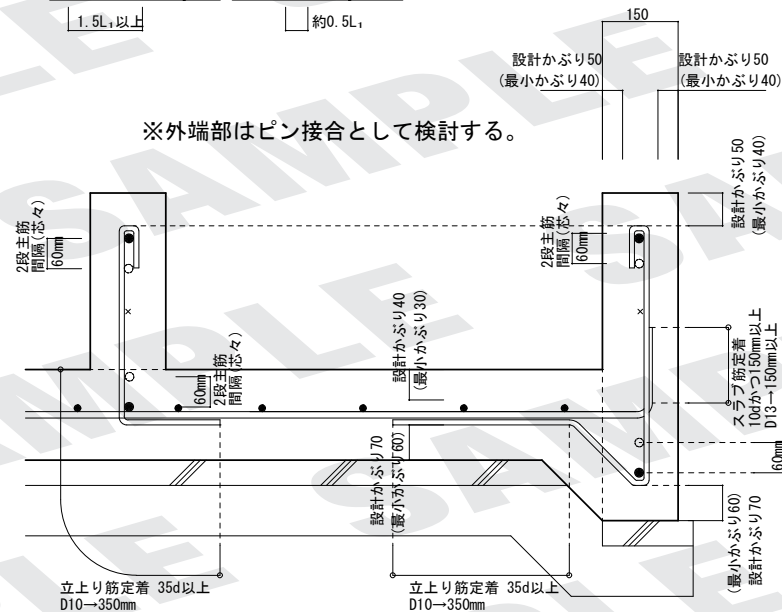
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

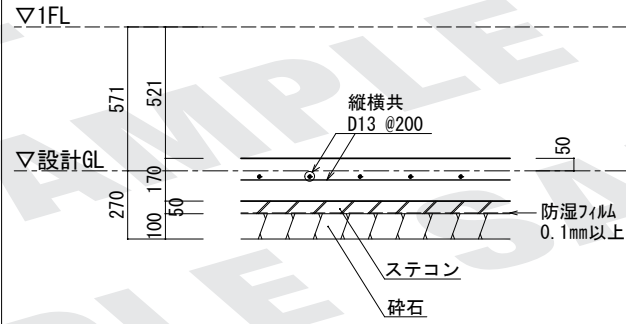
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする重ね継手(下図のいずれかのようにする)



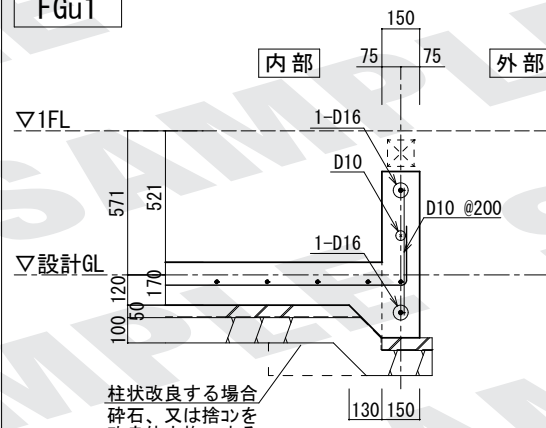
※外端部はピン接合として検討する。



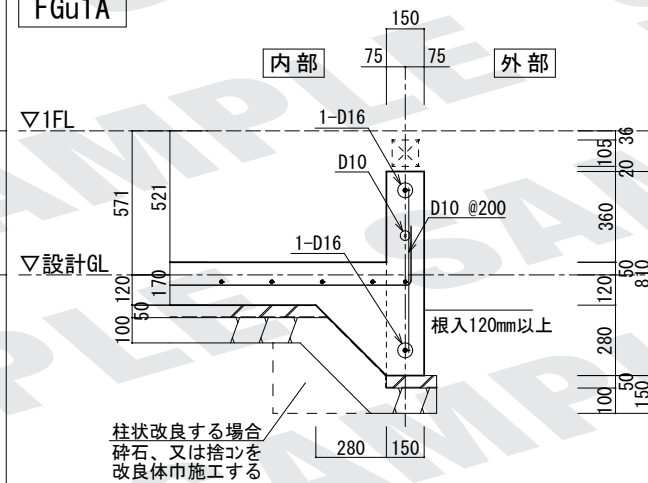
FS1



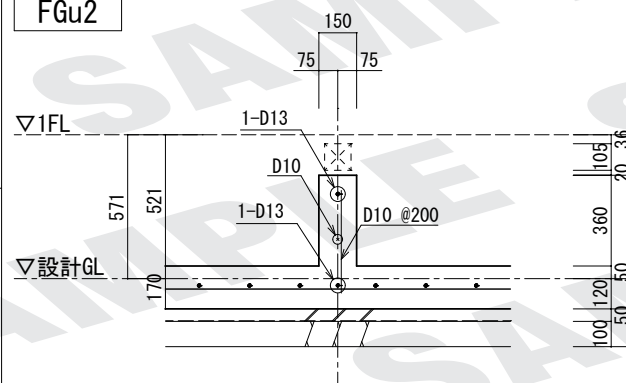
FGu1



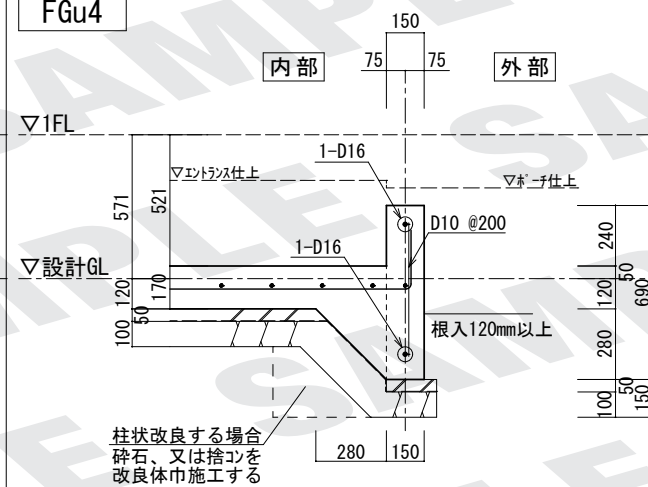
FGu1A



FGu2



FGu4



DRAWING BY :	DATE :	施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO	
						訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(1)11349号	DRAWING TITLE	SCALE
						訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学	基礎断面図	S=1/50	S-07a

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm² スランプ 18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

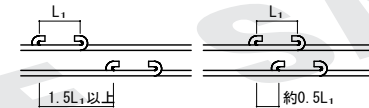
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つき梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

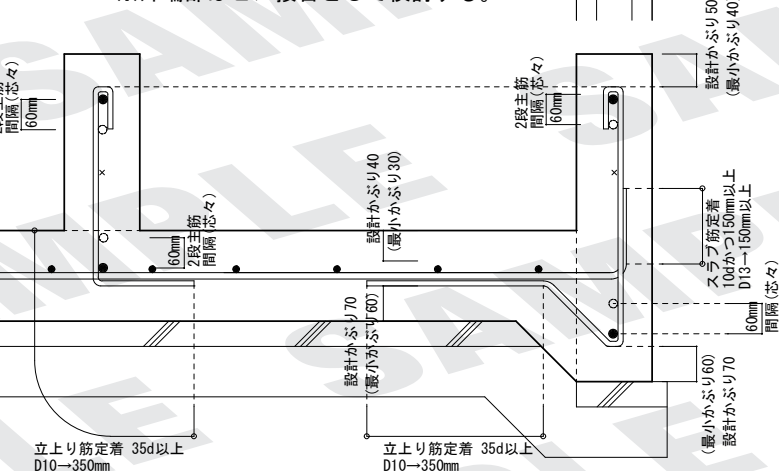
継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようにする)



設計かぶり50 (最小かぶり40)

※外端部はピン接合として検討する。



※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。

認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。

認定ユニット鉄筋の規定を順守すること

※基礎断面図はユニット鉄筋として作図してあります。

※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。

床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。

※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。

※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。

① 不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、

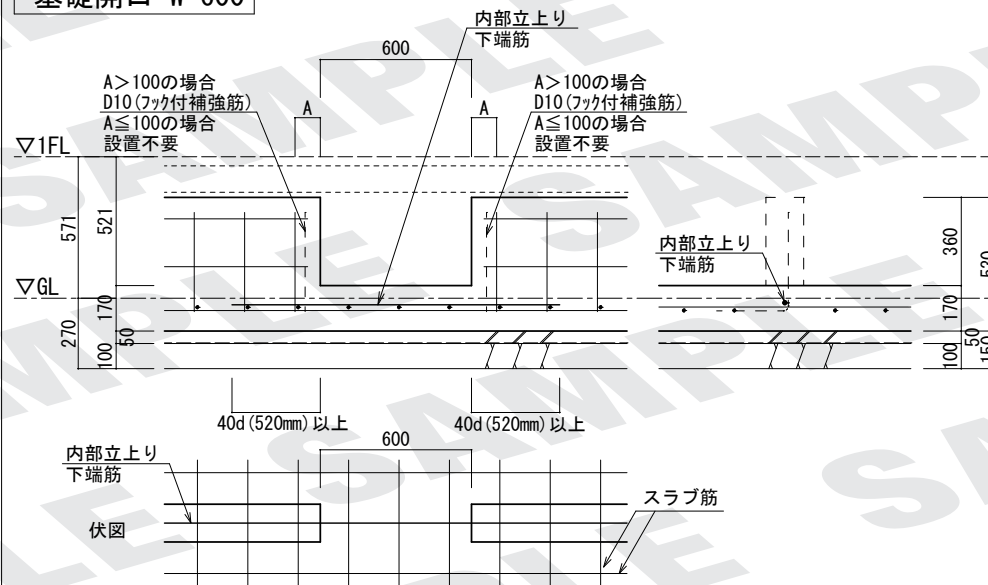
型枠・鉄筋を保持する台などを設ける

② 根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる

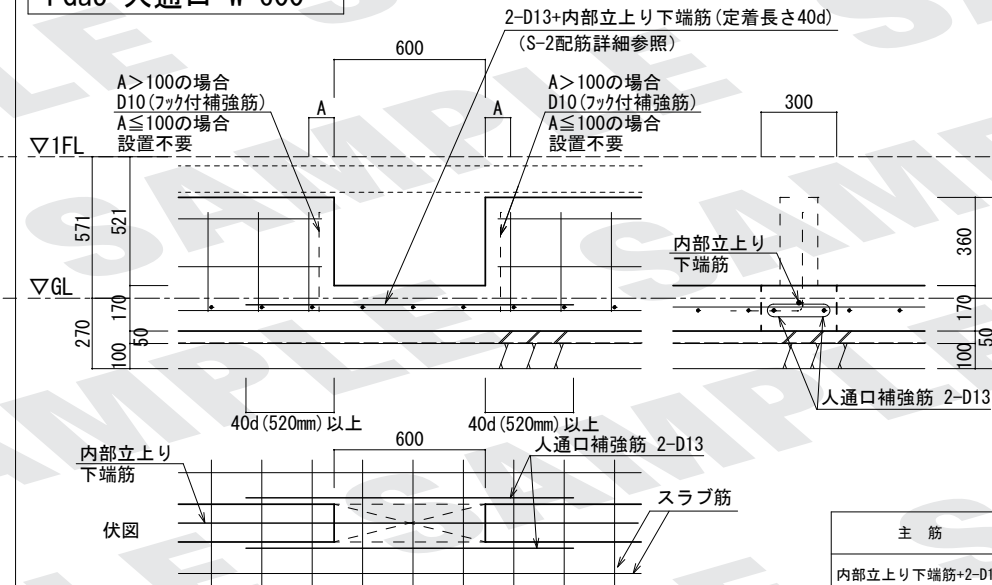
③ 根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水されてしまうおそれがある場合は散水する。

④ 規定のスラブ厚を確保する。

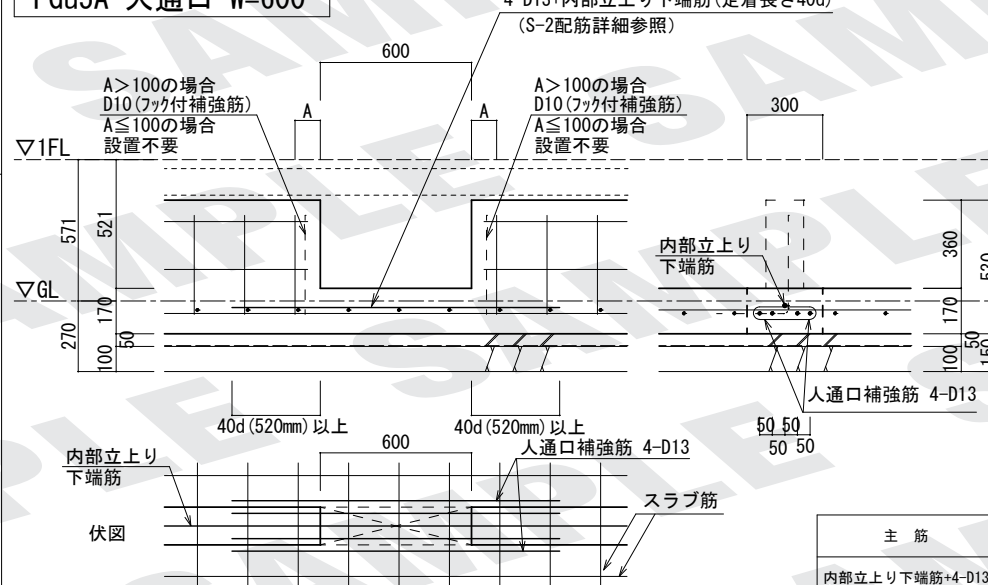
基礎開口 W=600



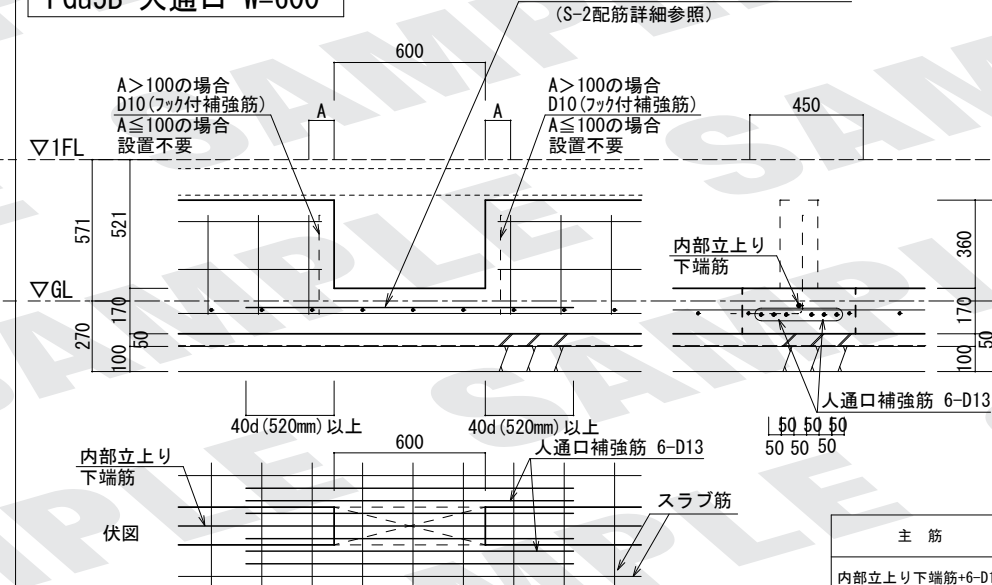
FGu5 人通口 W=600



FGu5A 人通口 W=600



FGu5B 人通口 W=600



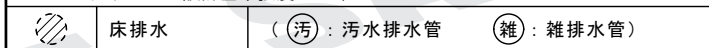
施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	基礎断面図	S-07b
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(1)11349号		
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学		
				訂正日 H			
DRAWING BY :					DRAWING TITLE	SCALE	
DATE :						S=1/50	

基礎伏図凡例

記号	項目	頭だし	芯より	埋込長さ
○	M12 アンカーボルト A-40同等品 M12×400 ※M12 HD時は芯より250mm 土台継手時は芯より300mm	基礎天+120mm	芯より150mm ※250mm	250mm以上
●	M16 アンカーボルト A-70同等品 M16×700	基礎天+340mm	芯より90mm	360mm以上
●	M16 アンカーボルト A-70同等品 M16×700	基礎天+340mm	芯より125mm	360mm以上
●	M16 アンカーボルト A-90同等品 M16×900 ※筋交い干渉回避用に上に伸ばす。芯より矢印方向に15mmずらす	基礎天+540mm	芯より90mm	360mm以上
●	M16 アンカーボルト A-90同等品 M16×900 ※筋交い干渉回避用に上に伸ばす。芯より矢印方向に15mmずらす	基礎天+360mm	芯より90mm 芯より125mm (HD35枠)	540mm以上
●	高耐力507.2tアンカーボルトM16 (カナイ) M16×900	基礎天+540mm	芯より82mm	360mm以上
△	土台継手位置			

※特記無き限り下記による

- ※ 防湿フィルム 0.1mm以上
- ※ 特記なき限り下記による。
アンカーボルト (M12, 柱芯から150mm離れ, @2,000以下)
- ※ 特記なき人通口の幅 600mm とする。
- ※ スラブ筋重ね継手の定着長さは40d以上とする。
- ※ 根切り時 (碎石を敷く前)、根切底を十分に転圧する。
- ※ コンクリートの設計基準強度: 21N/mm²

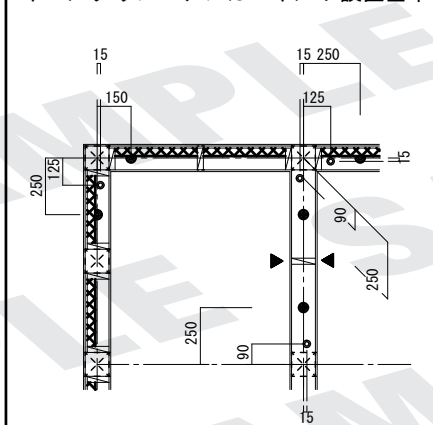


地耐力

長期設計地耐力 $f_e = 20.0 \text{ kN/m}^2$
 ※ 施工前に敷地内に於いてスウェーデン式サウンディング等の地盤調査を行い、支持層及び地耐力を確認する。
 地耐力が20.0kN/m²以上に満たない場合は地盤改良を行う。

凡例

ホールダウン・アンカーボルト設置基準



- アンカー頭出し: 基礎天より120出
- アンカー位置: 耐力壁の柱部分の芯より150離し
- ホールダウンアンカー位置: 柱芯より120離し
- 建物内周部の筋交い部のホールダウンは左右どちらかに偏芯させる事。(筋交いに当たります。)
- 建物外周部のホールダウンは内側に偏芯させる事。(真壁和室の場合は外側。)

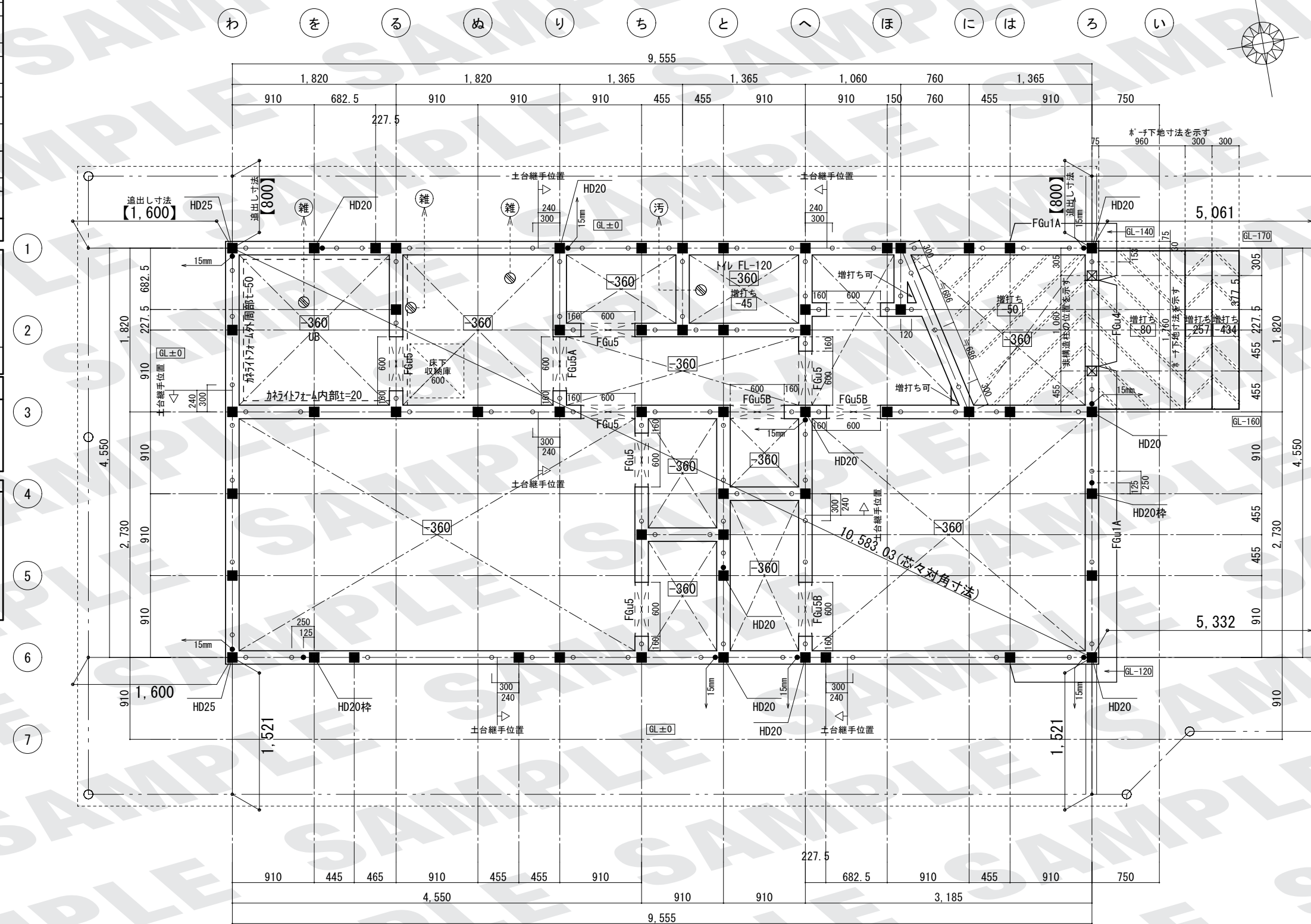
①-360はGL+50, FGU1の基礎天端から717高さとする。
 ※外周部の主要な出隅部は、HD20以上を取りつける (計算結果に拘らず)

- ※ 特記なきスラブはFS1とする。
- ※ 特記なき外部基礎立上りはFGU1とする。
- ※ 特記なき内部基礎立上りはFGU2とする。
- ※ 特記なき基礎スラブ天端はGL+50とする。
- ※ 特記なき外周部基礎立上りの芯振分けは75mm/75mmとする。
- ※ 特記なき内部基礎立上りの芯振分けは75mm/75mmとする。

※地盤改良があり、柱状改良杭・鋼製杭等の施工がある場合は以下を厳守すること
 構造設計者に事前に示した計画通りに柱状改良杭・鋼製杭等が施工出来ない場合は、施工前に連絡すること
 施工後の連絡の場合は対応し兼ねます
 ※7カホボルトが床下排水と干渉する場合は、施工者の判断で排水経路を変更し対応する

耐震等級3相当

真北



わ を る ん り ち と へ ほ に は ろ い

施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	基礎伏図	S-08
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(1)11349号		
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学		
				訂正日 H			
DRAWING BY :						SCALE	
DATE :						S=1/50	

土台伏図凡例

※特記無き限り下記による

記号	種類	
——	土台	105×105 (米桐KD材・防腐処理材 無等級)
====	大引	90×90 (米桐KD or 米松KD材・防腐処理材 無等級)
□	鋼製束	使用基準による
■	管柱	105×105 (杉集成材 E65-F255 同一等級)
特記なき柱のホゾ寸法は 9.0cm×3.0cm以下とする。		
床板 (1階)	構造用合板 t=24 (釘打ち N75@150以下)	

※GLからの高さが1m以内の外壁の軸組、木質系の下地材は現場にて防腐・防蟻処理を行う
※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する

柱脚・柱頭金物種類 (在来工法)

※下記耐力と同等以上の金物も使用可能

符号	種類	耐力 (KN)	備考
CP	告示1460号表3 (ろ)	3.4	
VP	告示1460号表3 (は)	5.1	
HD10	告示1460号表3 (へ)	10.0	M167か直付けではないプレート想定 1階柱脚金物は土台が先行破壊する為に6.5MNで設計
HD20	告示1460号表3 (ち)	20.0	性能試験適合品 枠材30mm対応品
HD25	告示1460号表3 (り)	25.0	性能試験適合品 枠材30mm対応品
HD35	告示1460号表3 (に)	35.0	性能試験適合品 枠材30mm対応品
OC20	オメガコーナー-20	21.7	榊タナカ (性能試験適合品)

※特記なき柱頭・柱脚には CPを取付けること

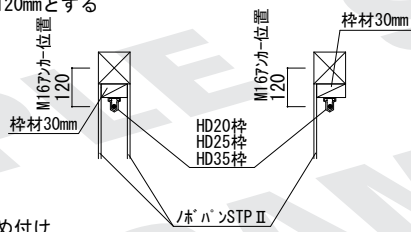
耐力壁凡例

記号	倍率	耐力壁の種類	
△	2.0	筋違 (シングル) 45×90	柱頭 △ 柱脚
△	4.0	筋違 (タスキ) 45×90	
2.9	2.9	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (壁勝) (FRM-0177)	
3.0	3.0	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (床勝) (FRM-0242)	
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (壁勝/床勝共) [入隅受材使用]	
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 受材真壁 (壁勝/床勝共) (FRM-0179) ※床勝の場合はW910のみ有効	

※novopanSTP II の釘はN50又はCN50とし、外周@100mm、内周@200mmとする。
※併用する場合は、上記倍率を加算する。
※一般壁 (非耐力壁) の釘は 外周@200、内周@300とする
※金物を同等以上の金物に変更するときは基礎伏図のM167か位置を確認すること。
※金物は仕様箇所によって床合板仕様・枠材仕様品を使い分ける。
※コナプレート系の金物は枠材の上には施工しないこと。実験等で安全を確認したものを除く。
取りつかない場合は、プレート系の金物若しくはHD20で対応すること
※柱脚のホゾの金物を枠材仕様にする時はM16の離れ寸法を要確認。

ノボパン真壁納まり

枠材は厚さ30mmの材を使用する事
M16アンカーの位置は柱芯から120mmとする

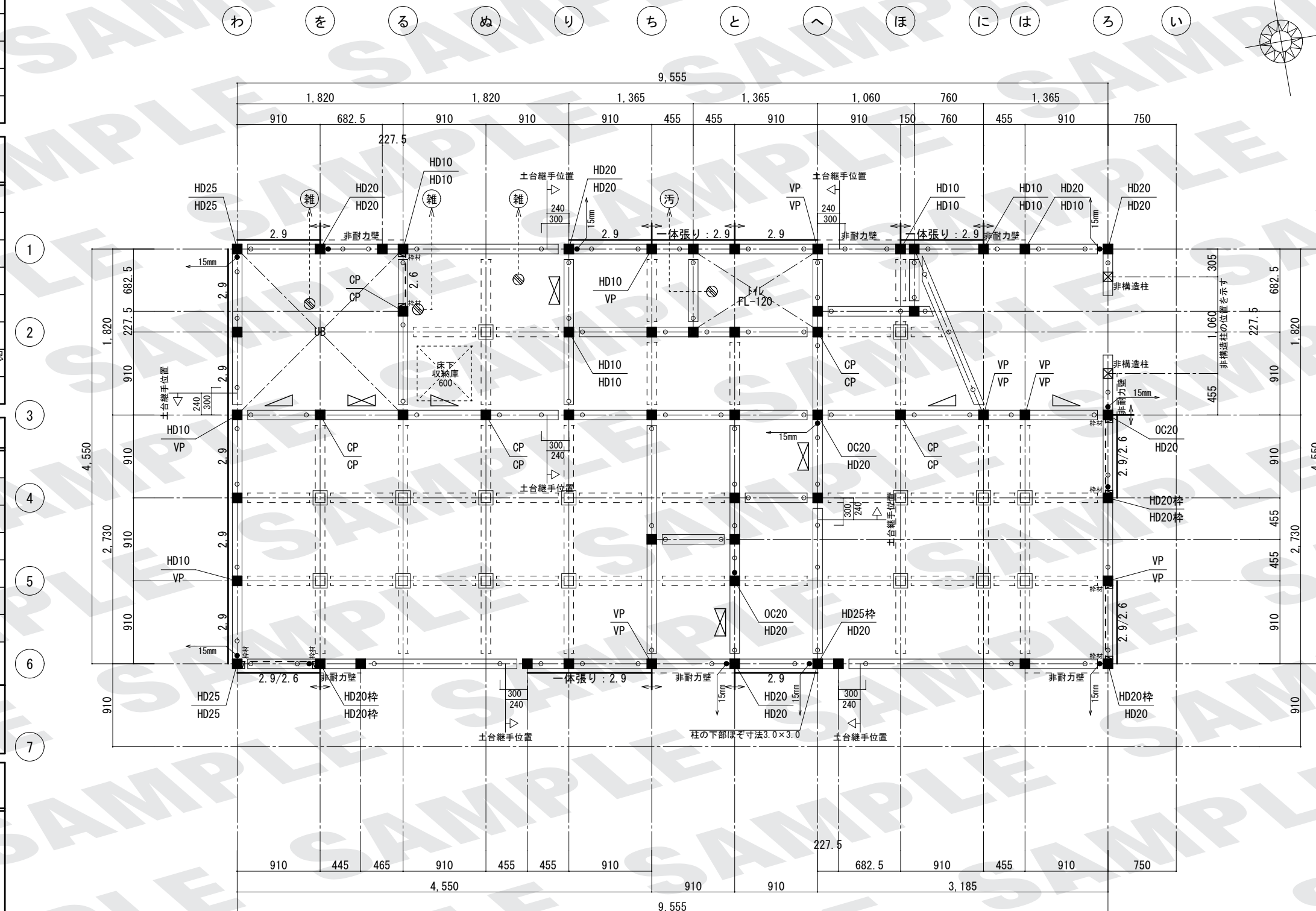


枠材はN75釘@100千鳥で柱に留め付け

※筋交いの樹種は桐 無等級材以上の基準強度を要する
※筋交いプレートの取り付け部材 (土台、柱、梁、筋交い) の樹種が、同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること (特に筋交いに米松、桐以外の材種を用いる場合は注意すること)
※筋交い及び筋交いプレートは柱に取り付ける (枠材に取り付けない)
※外周部の主要な出隅部は、HD20以上を取りつける (計算結果に拘らず)

耐震等級3相当

真北



☒ 非構造柱を示す

わ を る め り ち と へ ほ に は ろ い

施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所		
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(1)11349号	DRAWING TITLE	SCALE
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学	土台伏図	S=1/50
DRAWING BY :				訂正日 H			S-09
DATE :							

2階床伏図凡例

※特記無き限り下記による

記号	種類	
■	管柱	105×105 (杉集成材 E65-F255 同一等級)
特記なき柱のホゾ寸法は 9.0cm×3.0cm以下とする。		
×	下階の柱	
105×()	梁	特記なき梁は 105×105とする 樹種: レッドウッド集成材E105-F300 対称異等級 ※ 米松集成 (米松集成E120-F330 対称異等級) ※ LVL (A種 140E特級 65V-55H タフリカマツ)
□	甲乙梁	※床構造用合板の継手部分は 甲乙材 90×90 (米桐KD or 米松KD材 無等級)
	床板 (2階)	構造用合板 t=30 (釘打ち N75@150以下) ※UB設置範囲の構造用合板はt=30とする

柱脚・柱頭金物種類 (在来工法)

※下記耐力と同等以上の金物も使用可能

符号	種類	耐力 (KN)	備考
CP	告示1460号表3 (ろ)	3.4	
VP	告示1460号表3 (は)	5.1	
HD10	告示1460号表3 (へ)	10.0	M167か直付けではないプレート想定 1階柱脚金物は土台が先行破壊する為に7.0KNで設計
HD20	告示1460号表3 (ち)	20.0	性能試験適合品 枠材30mm対応品
HD25	告示1460号表3 (り)	25.0	性能試験適合品 枠材30mm対応品
HD35	告示1460号表3 (ろ)	35.0	性能試験適合品 枠材30mm対応品
OC20	オメガコーナー20	21.7	榊タナカ (性能試験適合品)

※特記なき柱頭・柱脚には CPを取付けること

耐力壁凡例

記号	倍率	耐力壁の種類	
△	2.0	筋違 (シングル)	45×90 柱頭 柱脚
△	4.0	筋違 (タスキ)	45×90
2.9	2.9	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (壁勝)	(FRM-0177)
3.0	3.0	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (床勝)	(FRM-0242)
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (壁勝/床勝共)	[入隅受材使用]
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 受材真壁 (壁勝/床勝共)	(FRM-0179) ※床勝の場合はW910のみ有効

※novopanSTP II の釘はN50又はCN50とし、外周@100mm、内周@200mmとする。
※併用する場合は、上記倍率を加算する。
※一般壁 (非耐力壁) の釘は 外周@200、内周@300とする
※金物を同等以上の金物に変更するときは基礎伏図のM167か位置を確認すること。
※金物は仕様箇所によって床合板仕様・枠材仕様品を使い分ける。
※コーナプレート系の金物は枠材の上には施工しないこと。実験等で安全を確認したものを除く。
※取付かない場合は、プレート系の金物若しくはHD20で対応すること
※柱脚のホゾの金物を枠材仕様にする時はM16の離れ寸法を要確認。

横架材端部接合物 ※下記耐力と同等以上の金物も使用可能		引張耐力
(A)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、又は、短冊金物	10.0
(B)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2	15.0
(C)	ホーマープレート (同等品) ×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×2	20.0
(D)	ホーマープレート (同等品) ×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×3	25.0
(Z)	大引き受け金物もしくは梁受け金物	

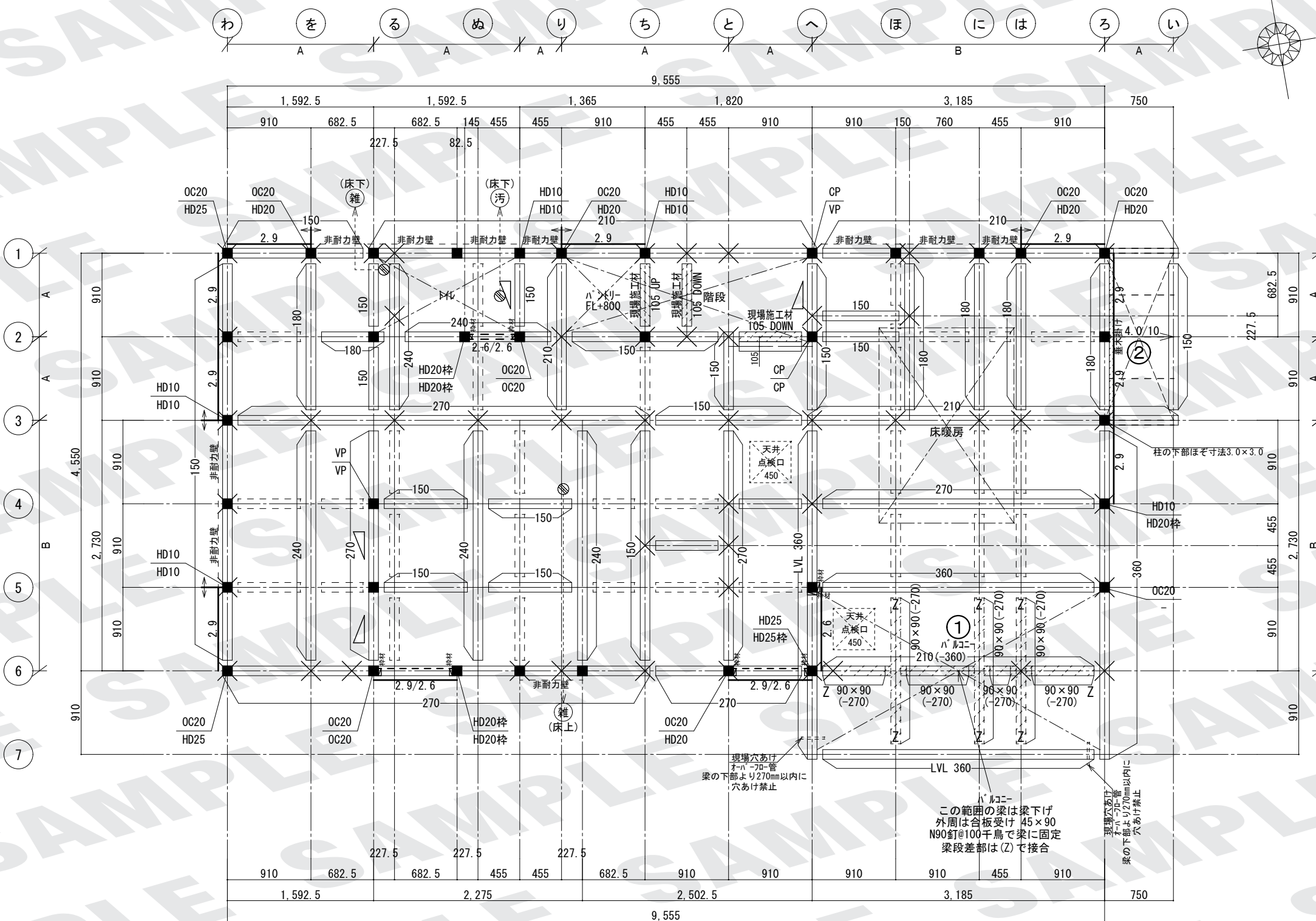
※特記無き限り (A)

※筋交いの樹種は桐 無等級材以上の基準強度を要する
※筋交いプレートの取り付く部材 (土台、柱、梁、筋交い) の樹種が、同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること (特に筋交いに米松、桐以外の材種を用いる場合は注意すること)
※筋交い及び筋交いプレートは柱に取り付ける (枠材に取り付けない)
※外周部の主要な出隅部は、HD20以上を取り付ける (計算結果に拘らず)
※ () 内の数値は2階床梁上端からの寸法を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板30mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
②: 4.0寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
①: 床合板仕様 構造用合板24mm or 30mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 同一梁せい内の床下げ
※ 合板受け 45×90 N90釘@100千鳥で梁に固定
※ 計算は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

耐震等級3相当

真北



DRAWING BY :	DATE :	施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
						訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	二階床伏図	
						訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(1)11349号		S-10
						訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学		

小屋伏図凡例

※特記無き限り下記による

記号	種類	
■	管柱 (PH階)	105×105 (杉集成材 E65-F255 同一等級)
特記なき柱のホゾ寸法は 9.0cm×3.0cm以下とする。		
×	下階の柱	105×105 (杉集成材 E65-F255 同一等級)
105×()	梁	特記なき梁は 105×105とする 樹種: レッドウッド集成材E105-F300 対称異等級 ※ 米松集成 (米松集成E120-F330 対称異等級) ※ LVL (A種 140E特級 65V-55H タフリカ材マツ)
□	甲乙梁	※床構造用合板の継手部分は 甲乙材 90×90 (米桐KD or 米松KD材 無等級)
○	小屋束	105×105 (杉KD材 無等級)
◎	小屋束	105×105 (杉集成材 E65-F255 同一等級)
	床板	構造用合板 t=24 (釘打ち N75@150以下)
／	鋼製火打ち	木製火打ち 90×90 (米松KD材・無等級)
※軒梁から屋根面までnovopanSTPⅡ t=9 張りとする 釘ピッチ等は耐力壁仕様と同様とする ※ 特記なき柱 (束) には CPを取付けること。		

※部材断面・材強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する

横架材端部接合物		※下記耐力と同等以上の金物も使用可能	引張耐力
(A)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、又は、短冊金物		10.0
(B)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2		15.0
(C)	ホームプレート (同等品) ×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×2		20.0
(D)	ホームプレート (同等品) ×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×3		25.0
(Z)	梁受け金物もしくは上部:大入れ 下部:蟻掛け加工+羽子板ボルト		

※特記無き限り (A)

特記なき箇所: 5.0寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm

垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
火打負担面積2.50㎡以下
取り付く梁成105以上 :せん断耐力0.98KN/m

①: 6.0寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力0.98KN/m
火打負担面積2.50㎡以下
取り付く梁成105以上 :せん断耐力0.98KN/m

②: 5.0寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

③: 6.0寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力0.98KN/m
床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

④: 6.0寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力0.98KN/m
※火打ちの設置は施工者判断
※計算上は火打ちなし、横架材端部接合物は火打ちありで安全側で設計

⑤: 6.0寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力0.98KN/m

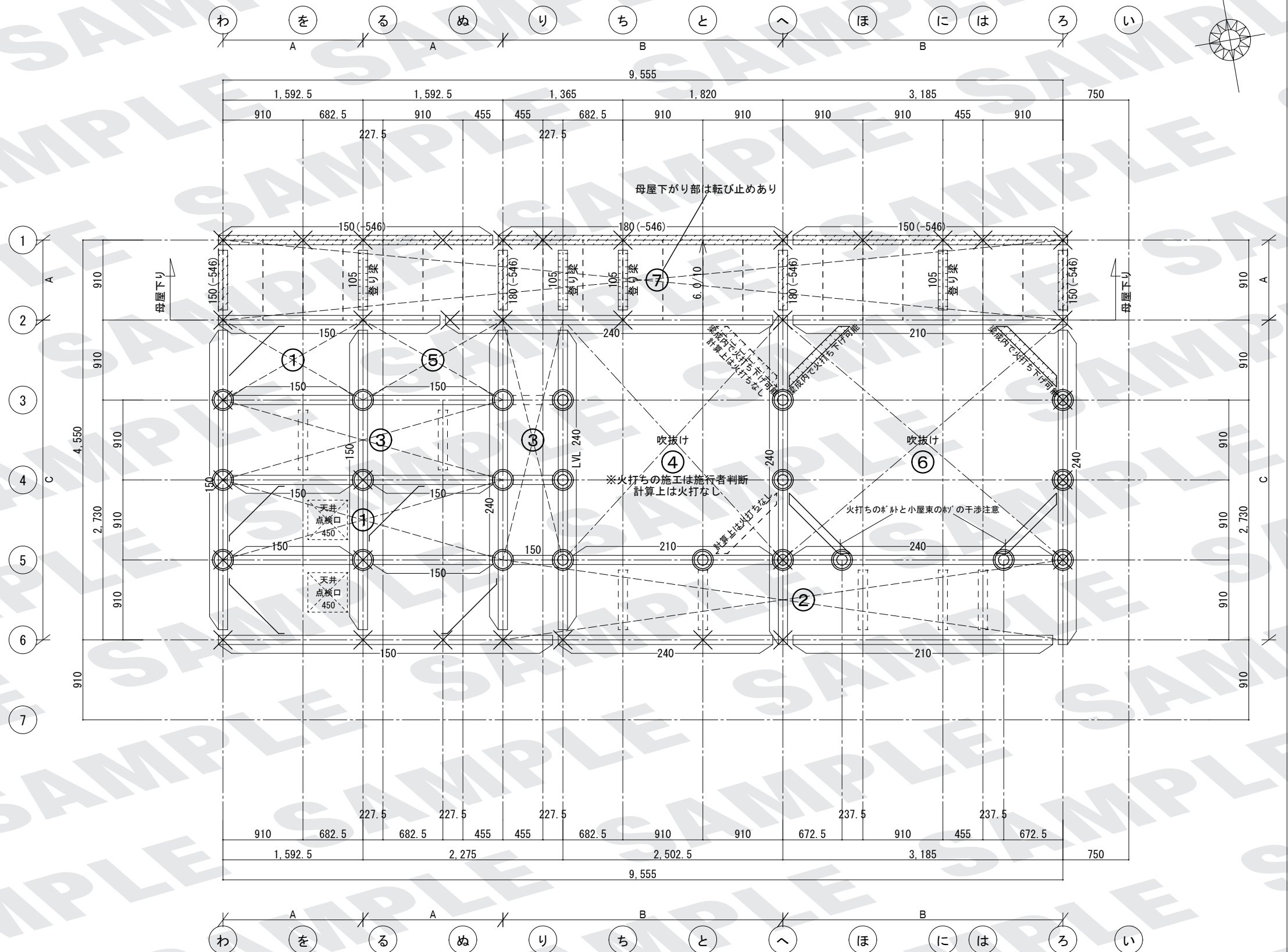
⑥: 6.0寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力0.98KN/m
火打負担面積2.50㎡以下
取り付く梁成150以上 :せん断耐力1.18KN/m

⑦: 6.0寸勾配 (転び止めあり) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m

※柱脚・柱頭金物の取り付く部材の樹種が、
同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種か確認すること
※()内の数値は軒桁上端からの寸法を示す

耐震等級3相当

真北



施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	DRAWING TITLE 小屋伏図	SCALE S=1/50
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(1)11349号		
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学		
				訂正日 H			
DRAWING BY :							S-11
DATE :							

母屋伏図凡例

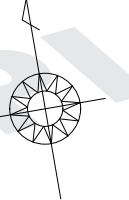
※特記無き限り下記による

耐震等級3相当

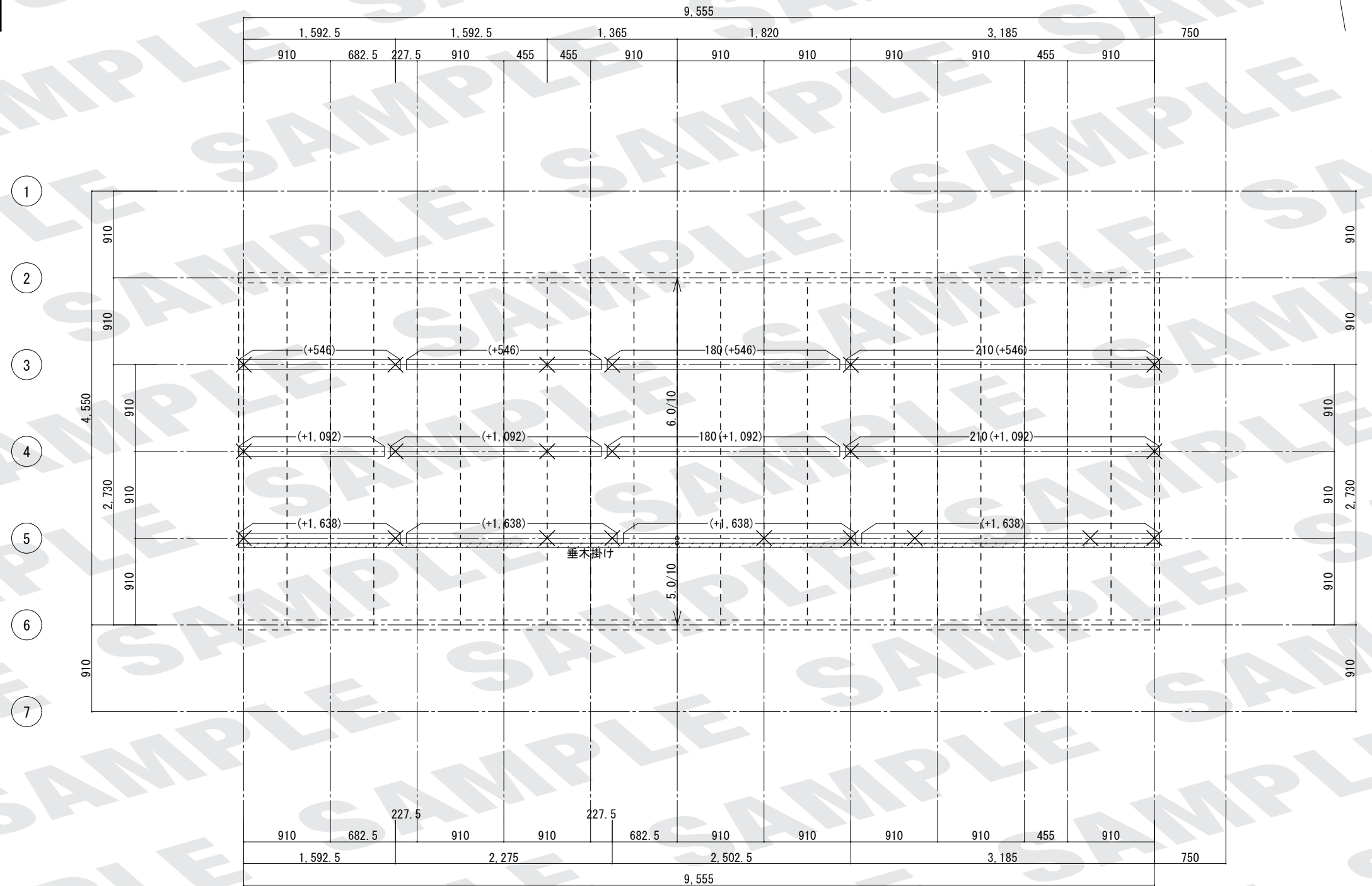
記号	種類	
■	管柱 (PH階)	105×105 (杉集成材 F65-F255 同一等級)
×	(下階の束)	
105×()	棟木, 母屋, 隅木 登梁	特記なき梁は 105×105とする 樹種: 杉KD材 (無等級), 梁成120以上の材は 米松KD材 (無等級材) とする
---	垂木	45×60 @455 杉KD材 無等級
	屋根野地板	構造用合板 t=12 (釘打ち N50@150以下)

※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する

真北



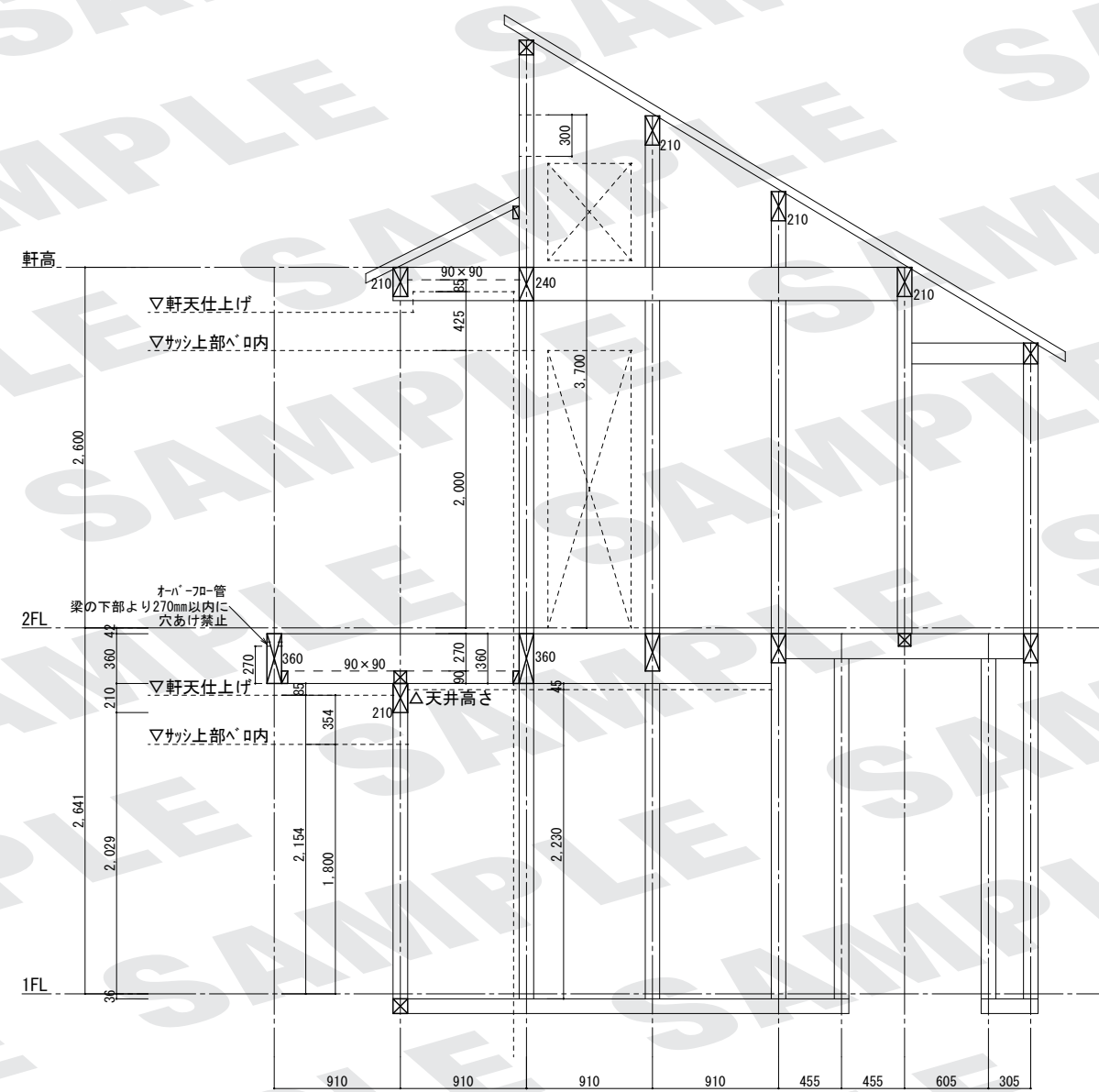
わ を る ん り ち と へ ほ に は ろ い



わ を る ん り ち と へ ほ に は ろ い

※柱脚・柱頭金物の取り付け部材の樹種が、
同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種か確認すること
※()内の数値は軒桁上端からの寸法を示す

DRAWING BY :	DATE :	施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日		MEMO	PROJECT TITLE		SHEET NO
						訂正日 H	訂正日 H		DRAWING TITLE		
						訂正日 H	訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	母屋伏図		S-12
						訂正日 H	訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(1)11349号	SCALE	S=1/50	
						訂正日 H	訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学			



ろ通り簡易軸組

DRAWING BY :	DATE :	施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
						訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所		
						訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(1)11349号	DRAWING TITLE	SCALE
						訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学	簡易軸組	S-14
						訂正日 H		S=1/50	